



◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化が栄えた背景に深く関わっていたことをシリーズ化してご紹介しています。 **北上川と共に生きた平泉文化** 第11弾 —平泉文化を支えた母なる川・北上川—

川沿いの遺跡の数々 川にまつわる歴史の多さを物語る



長者ヶ原廃寺跡 【衣川沿い】

安倍氏によって建てられた寺院跡
長者ヶ原廃寺跡には、1辺約100mの築地塀がほぼ四角形に巡り、中からは本堂跡・西建物跡・南門跡の3棟の建物が確認されています。

ここは、三代秀衡の厚い信頼のもと、平泉と京都を往復していた豪商「金売り吉次」の屋敷跡といわれていました。しかし発掘調査の結果、築地塀に囲まれた部分から10世紀末～11世紀前半の土器が出土しました。大きな石の上に柱を立ててできた建物であることから、初代清衡の母方の祖先にあたる安部氏によって建てられた寺院跡と考えられるようになりました。



長者ヶ原廃寺跡

白鳥館遺跡 【北上川沿い】

北上川舟運の重要拠点

白鳥館遺跡は、中尊寺や高館から北に見える場所にあります。北上川舟運の重要な場所として機能していたと考えられる遺跡です。

この遺跡は「(安倍)白鳥八郎則任の居所」といわれていて、現在でも15世紀の城館の痕跡がよく残っています。近年の調査では、平泉時代の建物跡や工房跡が発見されており、北上川の「川湊」の跡ではないかといわれています。

この付近の北上川は大きく蛇行し、遺跡を囲むように南に流れています。そのため従来する舟を監視しやすく、北上川の重要な拠点となったと考えられます。



空から見た白鳥館遺跡

高館義経堂 【北上川沿い】

源義経最期の地と伝わる場所

高館は北上川に面した小高い山で、一帯は初代清衡の時代から要害地とされていました。平泉に逃げ落ちた源義経は、三代秀衡の庇護のもと、この高館に居館を与えられました。頂上にあるのが1683(天和3)年、仙台藩主第4代伊達綱村公が義経を偲んで建てた義経堂で、中には木造の義経像が安置されています。

※要害地・・・地形がけわしく、守りやすいところ
※庇護・・・かばって守ること



義経堂



高館から見た北上川と東稲山

※バックナンバーはこちら http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/svuttyoujyo/ichinoseki/2020/2020_ichinoseki.htm
第1弾 NO.467 第2弾 NO.468 第3弾 NO.470 第4弾 NO.478 第5弾 NO.479 第6弾 NO.480
第7弾 NO.482 第8弾 NO.486 第9弾 NO.487 第10弾 NO.493

※北上川学習交流館 あいぼーと展示資料より